

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第51号 平成23年12月号

クリスマス
ケーキも囲んで
和哉 歳の瀬



発行

MCS GROUP

有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2

TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467

URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>

E-Mail ait@motomiya-mcs.jp

新製品 続々登場！ウルトラブック！

スマートフォンやタブレット端末の勢いに押されて元気がなかったモバイルノートパソコンですが、ここに来てにわかに活気付いてきました。パソコンの頭脳であるCPUを手がけるインテル社が提唱する「UltraBook」(ウルトラブック)と呼ばれるノートパソコンが続々と登場し始めています。

薄い！軽い！安い！

「ウルトラブック」とは、簡単に言えば「薄くて、軽くて、安い」ノートパソコンのことです。アップル社のMacBook Airをイメージしていただければ分かりやすいでしょう。このウルトラブック、ほぼA4用紙サイズの大きさに20mmよりも薄いボディ、1kg前後の重量で、実際に手に取ってみると「薄い！軽い！」というのが第一印象で、“ノート代わりにカバンに入れて持ち歩く”という表現が大げさではないことを実感します。

CPUにCore i7やCore i5、13型液晶モニタ、128GBのSSD(ハードディスク)を搭載するなど、性能的にも申し分ないスペックとなっています。



ASUS社「ZENBOOK」

その薄さから、光学ドライブを内蔵していない、有線LAN端子を装備していない(無線LANを内蔵)、USB端子の数が少ないなど制約もありますが、常時携帯するサブノートパソコンとしては十分です。

各社から続々発売！

現在、ASUSの「ZENBOOK」、東芝の「dynabook R631」、Acerの「Aspire S3」などが発売されています。液晶モニタの解像度ならZENBOOK、バッテリー駆動時間ならdynabook、価格ならAspireが有利です。使用状況に合わせて、お好みの製品を選択することができます。

価格帯は8万円～15万円程度とスペックの差によってやや幅がありますが、これまでの同クラスのモバイルノートパソコンが20万円前後以上だったことを考えると、値ごろ感があります。

携帯型端末をお探しの方はスマートフォン、タブレットとの選択肢に加えてみてはいかがでしょうか。

セキュリティ 情報漏えいのリスク管理

ここ最近、不正アクセスでの情報漏えい事件が続いています。また、官公庁が標的となり、コンピュータウイルスに感染し情報漏えいが疑われる事例も報告されています。情報漏えいは決して他人事ではなく、いつ自分が被害者/加害者になってしまうか分からない危険をはらんでいます。

安易な同報メールにご注意を

皆さんは仕事やプライベートでEメールを使わない日はないと思います。業務連絡や取引先との打合せ、またメールマガジンの配信など、その用途は多岐に渡ることでしょう。メールマガジンのように同じ内容のメールを複数の宛先に送信する同報メールは、一歩間違えば即、情報漏えいに繋がります。

Eメールは、送信先を宛先(TO)、CC、BCCのいずれかの欄に記述して送信します。皆さんはこの3つの役割の違いをご存知でしょうか？

宛先(TO)はメールを読んで欲しい本人宛に使用します。CC(カーボン・コピー)は、この人宛てではないけれど読んでおいて欲しいという場合に使用します。BCC(ブラインド・カーボン・コピー)は、CCと同様の場合で、なおかつ送信したことを知られたくない場合に使用します。

同報メールを送信する際に、宛先に全ての送信先メールアドレスを記述してしまうと、送ったメールアドレス全てが併記されて誰に送ったのかが分かってしまうこととなります。これは立派な情報漏えいです。仲間内ならいざ知らず、仕事上のメールでこれを行ってはいけません。十分注意しましょう。

USBメモリの管理も慎重に！

USBメモリの紛失による情報漏えいも深刻です。車上荒しに遭い、仕事道具ごと盗まれてしまうケースが後を絶ちません。不可抗力のようにも思えますが、職場から情報を持ち出している時点ですでに管理がずさんであると言わざるをえません。値段も安く、持ち運びも楽で使い勝手もいいだけに、安易にデータを持ち出してしまうようです。

情報セキュリティポリシーを策定していない場合、一度、全社をあげて検討してみるのがよいでしょう。

編集後記 モバイルノートパソコンがニッチ市場の製品だったのはだいぶ昔の話になってしまいました。ネットブックの流行から現在のタブレット端末の流行へシフトする動きの中で登場したウルトラブックはとても魅力的な製品だと思います。外出先のレストランなどでモバイルノートを片手に仕事をする人の姿もよく見かけるようになりました。業務の効率化や、隙間時間の活用のためには携帯できる端末はとても役に立ちます。皆さんもご検討してみてください。(本田)

